

総合振興計画実施計画事業(平成17～20年度)の実績及び達成状況一覧表

第3章 教育・文化・スポーツの分野													
第1節 「潤い」のある教育の推進													
番号	事業の名称	担当課	事業の概要	現況(H17年度当初)	H20年度末計画目標	4年間の実績				達成状況	新実施計画での対応	備考	
						実績及び事業内容		H17	H18				H19
3101	少人数指導の充実	教育委員会教職員課	基礎・基本の徹底と子どもたちの個性や能力を伸ばし豊かな心を育むため、教員免許を有する少人数指導サポートプラン臨時教員を小中学校に配置します。	臨時教員数30名 (小学校20、中学校10)	135名	児童生徒一人ひとりの理解や習熟度に応じた授業を行い、基礎学力の向上ときめ細かな指導の充実を図るため、少人数指導サポートプラン臨時教員補助員を配置しました。平成20年度には、政令指定都市では唯一、全市立小・中学校への配置を完了しました。 担任や教科担当教員と少人数指導サポートプラン臨時教員補助員との連携により、学習の過程や成果をきめ細かく評価し指導改善に役立てるとともに、教材(プリント等)や教具などの充実が進み、児童生徒の学習意欲と学力向上につながるなどの成果がありました。	少人数指導サポートプラン臨時教員補助員を配置 30人 (小学校20人、中学校10人)	配置数増員 40人 (小学校27人、中学校13人)	88人 (小学校57人、中学校31人)	158人 (小学校101人、中学校57人) 全校配置完了	→	継続	
1109	環境教育・学習の推進 (再掲1章1節)	環境局環境総務課 教育委員会指導1課	環境への意識を高めるため、リサイクル活動や学校緑化コンクールへの参加、学校ビオトープの管理・活用などを充実します。また、環境教育・学習を推進していくための総合的方針・計画を策定し、個人が自発的に環境保全に取り組む活動を支援します。	リサイクル活動実施校62% 環境美化活動実施校63%	90% 90% 策定(19年度) 推進	次世代を担う子どもの環境意識を高めるため、環境教育の一環として、「環境保全標語・ポスター作品コンクール」や、小中学生とその保護者を対象に「アースミュージカル」を開催するとともに、小中学校で利用する環境教育資料の改訂や学校におけるリサイクル活動の推進を行いました。 その結果、平成20年度におけるリサイクル活動は102校、環境美化活動は94校で実施、学校緑化コンクールへは41校が参加、学校ビオトープについては、小・中学校24校で活用中となりました。 また、環境教育・学習を推進していくための総合的方針・計画として、(仮)さいたま市環境教育基本方針を策定するため、他市の情報収集に努めるとともに、平成19年度からは、庁内委員会を設置するなど具体的な策定作業に着手しました。 今後は、平成21年度の策定に向けて作業を進めていきます。 [取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化 ・協働による計画策定、計画の進行管理、事業の評価	「環境保全標語・ポスター作品コンクール」「アースミュージカル」の実施 リサイクル活動推進 実施校74% 環境美化活動推進 実施校67%	実施校74%	実施校65%	実施校65%	→	継続	平成20年4月の組織改正に伴い、環境経済局より局名を変更しました。
3102	特色のある学校づくり推進事業	教育委員会指導1課	授業や地域の方々の憩いの場に活用できる自然園づくり、地域にある貴重な植物の保存活動、中学生が算数教師として小学校5・6年の算数の学習をサポートするなど、市立幼小中養護高等学校の創造的な「特色のある学校づくり」の取組を推進するため、毎年10校程度の推進指定校を定め、各学校を支援します。	指定校応募学校数139校	164校 (19年度)	本事業は、平成15年度から5年間実施した事業(平成19年度までの時限事業)で、平成15・16年度においては延べ36校、平成17～19年度においては延べ72校の市立小・中・高等学校を「特色のある学校づくり推進事業指定校」に定め、推進してきました。 指定校では、内容に応じて1年から3年間の委嘱期間を定め、地域の恵まれた人材と自然を生かした取組、小・中・高が一体となった子どもの育成、確かな学力の向上を目指した実践、日本の文化を継承する取組、地域に根ざした「心のふるさと、米づくり体験学習等、様々な特色のある各校の取組を実施しました。	指定校応募校数 162校 指定校 継続指定校17校 新規指定校7校	161校	161校	6校 0校	→	完了	

総合振興計画実施計画事業(平成17～20年度)の実績及び達成状況一覧表

第3章 教育・文化・スポーツの分野														
第1節 「潤い」のある教育の推進														
番号	事業の名称	担当課	事業の概要	現況(H17年度当初)	H20年度末計画目標	4年間の実績				達成状況	新実施計画での対応	備考		
						実績及び事業内容								
						H17	H18	H19	H20					
3103	小・中一貫「潤いの時間」の展開	教育委員会指導1課 指導2課	国際社会をたくましく豊かに生きる児童生徒の育成を目指すため、潤いの時間を教育課程に新設し、小学校から中学校まで小・中一貫の系統的・継続的なカリキュラムのもと、人間関係プログラム並びに英会話を実施することにより、コミュニケーション能力をはじめとする人間関係の構築に必要な技術を学びます。	実施準備	英会話実施校数158校 人間関係プログラム見直し	<p>小・中一貫「英会話」は、平成17年度から7校の研究指定校で開始し、当初の予定を1年前倒して、平成19年度から全小・中学校で開始しました。なお、中学校1・3年生を対象に効果測定を実施した結果、学習の積み重ねにより、「英語によるコミュニケーション力」が着実に培われていることがわかりました。</p> <p>平成20年度は、39校の研究推進センター校を中心とした授業研究会の実施回数を増やし、小・中学校の教員が相互の授業を参観し、意見交換するなど、小・中学校の連携強化を図りました。</p> <p>「人間関係プログラム」は、児童生徒のコミュニケーション能力の育成や自己開示・自己表現を安心して行える学級づくりを目指すため、平成17年2学期から市立全小・中学校で実施しました。平成18年度から実施しているプログラムの効果を測る本市独自の調査によると、積極的にコミュニケーションを取ろうとする児童生徒数が増加するなど成果がみられました。</p> <p>また、親が子どもとのコミュニケーションを深める技術の習得を目指した「親子支援プログラム」のテキストを新たに作成し、保護者向けの体験講座を実施するなど、家庭と地域との連携によるプログラムの定着を図りました。</p> <p>[取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化 ・協働による事業の推進 アプローチ6 行政評価システムの構築と運用 ・政策評価システムの構築 アプローチ7 健全な行財政運営 ・民間活力の有効活用</p>	<英会話> カリキュラムの開発 → 教員等の研修 → 研究指定校7校で先行実施・検証 → 先行実施校を9校追加 → 全小中学校で実施						継続	新学習指導要領の移行措置に当たり、「人間関係プログラム」及び「英会話」の時間を見直すとともに、新たに「教育課程特例校」として実施計画変更の手続きを完了した。
3104	生徒指導総合計画子ども潤いプランの推進	教育委員会指導1課 指導2課	次代を担う子どもたちの健全育成を図るため、体験活動の場や機会の充実、家庭・地域社会の教育力の充実、心のサポート体制の確立、魅力ある学校づくりの推進の基本施策に基づいたアクションプログラムを展開します。	推進	アクションプログラムの見直し(19年度) 推進	<p>社会生活を担える自立心と社会性のある子どもを育てるため、平成18年度から全市立中学校で中学生社会体験事業(ふれあい3days)を実施しました。</p> <p>平成19年度は、事業の見直しを行い、事業の内容に勤務観、職業観を身に付け、明確な目的意識を持って職に就くとともに、仕事を通じて社会に貢献することができるような「キャリア教育」という視点を取り入れました。</p> <p>平成20年度は、中学生社会体験事業を「キャリア教育」を一層推進する視点から、中学生職場体験事業「未来(みらい)くろくワーク体験」として実施しました。職場体験を通して、子どもたちに望ましい勤務観・職業観をはくむことができました。</p> <p>今後も、本事業をさいたま市のすべての子どもに実施することにより、「将来になりたい職業を見つけられる子ども」の育成を目指します。</p> <p>[取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化 ・協働による事業の推進 アプローチ2 市民活動の支援 ・広報の充実</p>	岩槻区の一部の学校を除く、市立中学校で実施 → 市立全中学校で実施			学年の移行に伴い実施しない学校を除く、市立中・特別支援学校で未実施のワーク体験実施 →			継続	







総合振興計画実施計画事業(平成17～20年度)の実績及び達成状況一覧表

第3章 教育・文化・スポーツの分野													
第1節 「潤い」のある教育の推進													
番号	事業の名称	担当課	事業の概要	現況(H17年度当初)	H20年度末計画目標	4年間の実績				達成状況	新実施計画での対応	備考	
						実績及び事業内容		H17	H18				H19
3112	市立高等学校の整備	教育委員会 学校施設課	老朽化した学校施設の耐震補強工事や改築を計画的に進めます。	事業中	推進	耐震化が必要な建物について、耐震診断及び耐震補強設計・耐震補強工事に取り組みました。 平成20年度末までに、体育館優先度調査1棟・体育館耐震2次診断1棟、校舎優先度調査3棟、校舎耐震第1次診断5棟、校舎耐震第2次診断12棟、校舎耐震補強実施設計10棟、校舎耐震補強工事1棟を行いました。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ8 公共施設の適正配置 ・施設の長寿命化	・優先度調査(体育館) 1棟	・優先度調査 3棟 ・耐震1次診断 5棟 ・耐震2次診断 2棟	・耐震補強実施設計 2棟 ・耐震2次診断 10棟	・校舎耐震補強工事 1棟 ・耐震補強実施設計 8棟 ・耐震2次診断(体育館) 1棟	→	継続	
3113	中高一貫教育の推進	教育委員会 指導2課 学校施設課	市立浦和高校における併設型中高一貫教育校開設に向けて、具体的な建設計画の立案、教育方針・教育目標などの策定を行います。	事業中	併設型中学校 開校(19年度)	平成19年4月に、さいたま市で初めての併設型中高一貫教育校として、市立浦和高等学校内に浦和中学校を新設しました。 平成19年度には、プールや研修合宿棟の建設を行い、施設整備が完了しました。 今後も、さいたま市にふさわしい都市型の中高一貫教育の実現に向け、課題の整理や成果の検証、教育実践の普及策の検討を行います。 また、他の市立高校についても、中高一貫教育の導入の可能性を検討します。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ7 健全な行財政運営 ・歳出の抑制 アプローチ8 公共施設の適正配置 ・施設の複合化	中高一貫教育校開設準備室を設置	学校説明会の開催	開校(開校式・入学式) (4月)	中高一貫教育校の課題の整理、成果の検証、教育実践の普及	→	完了	平成19年4月の組織改正に伴い中高一貫教育校開設準備室より担当課を変更しました。
3114	さいたま教育コラボレーション構想の推進	教育委員会 指導1課	埼玉大学と連携し、学生による児童生徒への学習支援などの教育ボランティア活動や教員の大学講座への参加、学生へのキャリア教育などを実施し、教職員の資質向上と学校教育の充実を図ります。	推進	推進	平成16年11月29日に、さいたま市教育委員会と埼玉大学とで協定書に調印しました。 平成17年度には、さいたま教育コラボレーション推進委員会での連携協力事項の確認と具体的内容の検討をして、大学生による学習支援ボランティア(アシスタントティーチャー)をさいたま市内の小・中・特別支援学校に配置しました。 平成19年度からは募集の範囲を大学2・3・4年生に広げました。また、さいたま市小・中学校10年経験者研修及び、25年経験者研修において、市内の教員が埼玉大学教育学部の講座を受講しました。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化 ・協働による事業の推進 アプローチ2 市民との情報共有 ・媒体の多様化(電子媒体等の活用) アプローチ5 職員の意識改革と能力開発 ・多様な人材の確保	アシスタント ティーチャー 54校各1名	113校延べ 150名	112校延べ 147名	112校延べ 133名	→	継続	10年経験者研修、25年経験者研修で実施されてきた大学講座(選択受講)は、平成21年度より、教員免許更新講習が開始されたことに伴い、該当教員の負担を考慮し、年次研修から削除いたしました。
3115	地域講師派遣事業	教育委員会 指導1課	市内小・中学校の各教科や総合的な学習の時間などに、地域の人材を講師として派遣します。	派遣人数 757人	790人	学校が特色ある教育を推進するため、市内小・中学校の各教科や総合的な学習の時間などに地域の人材を講師として派遣しました。地域講師派遣事業要綱で、平成19年度より地域講師の報償費が原則として1校につき4回までとなり、平成20年度は上限が632人です。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化 ・協働による事業の推進	派遣人数 小/451人 中/212人 計663人	小/469人 中/161人 計630人	小/483人 中/127人 計610人	小/470人 中/147人 計617人	→	継続	計画目標の現況(H17年度当初)欄の数値は、17年度当初の見込みの数値です。平成16年度末の実績は、498人でした。

総合振興計画実施計画事業(平成17～20年度)の実績及び達成状況一覧表

第3章 教育・文化・スポーツの分野																	
第1節 「潤い」のある教育の推進																	
番号	事業の名称	担当課	事業の概要	現況(H17年度当初)	H20年度末計画目標	4年間の実績				達成状況	新実施計画での対応	備考					
						実績及び事業内容											
						H17	H18	H19	H20								
3116	地域に開かれた学校運営の推進	教育委員会指導1課 指導2課 教育総務課	家庭・地域の声を生かし、地域の学校としての運営を行うため、市立小・中・高等養護学校全てにおいて、学校評議員制度を導入するなど、市民の視点での教育改革を進めます。	学校評議員設置校159校	163校(全小中高養護学校) 推進	<p>地域や社会に開かれた学校づくりの推進を目的として、校長が学校運営の参考とするために、保護者や地域の方々の意見を幅広く聞くための仕組みである学校評議員制度を導入しました。平成19年度には、新設校の辻南小学校、浦和中学校を含め、すべての市立小・中・高等・特別支援学校163校に学校評議員を設置しました。</p> <p>また、平成20年4月には、さいたま市立小・中学校管理規則の一部改正を行い、学校評価システムの実施方法等について検証し、改善充実を図りました。</p> <p>さらに、「学校地域連携コーディネーター」の市立小・中学校への配置を平成20年度から開始し、保護者や地域住民が学校づくりに参画できる体制の整備を進めています。</p>	<p>学校評議員配置校</p> <p>159校</p> <p>・教育委員会制度見直し ・教育改革の調査・研究</p>	<p>159校</p> <p>・意識改革・環境整備の推進 ・教育改革の検討</p>	<p>163校</p> <p>・学校評価システムの検証・確立</p> <p>・保護者や地域住民の学校運営の推進</p>	<p>163校</p> <p>・学校地域連携コーディネーターの配置</p>	→	→	→	→	継続		
3117	学びの向上さいたまプランの策定・推進	教育委員会指導1課	基礎学力に加え、学ぶ意欲や自ら学び考える力の向上のために、学びの向上さいたまプランを策定し、基礎学力定着プログラム、国語力向上プランなどを推進します。また、児童生徒の得意分野を育成するために、(仮)全ての子供に得意分野づくりプログラムを策定し推進していきます。	構想・検討	<p>学びの向上さいたまプラン、基礎学力定着プログラム、国語力向上プランの策定(17年度)</p> <p>(仮)全ての子供に得意分野づくりプログラムの策定(18年度)</p> <p>推進</p>	<p>&lt;学びの向上さいたまプラン&gt;</p> <p>「学びの向上さいたまプラン」策定</p> <p>各事業の推進</p> <p>&lt;得意分野づくりプログラム&gt;</p> <p>庁内会議において方向性の検討</p>	<p>「学びの向上さいたまプラン」推進会議開催</p> <p>八都府市共同キャンペーン</p> <p>「学びの向上さいたまプラン」推進会議における検討</p>	<p>八都府市共同キャンペーン</p> <p>・得意分野の形成のために、参加できる事業の体系化・推進委員会の設置</p>	<p>・「自分発見！」チャレンジさいたま開始</p>	→	→	→	→	→	→	継続	

総合振興計画実施計画事業(平成17～20年度)の実績及び達成状況一覧表

第3章 教育・文化・スポーツの分野															
第2節 生涯学習の振興															
番号	事業の名称	担当課	事業の概要	現況(H17年度当初)	H20年度末計画目標	4年間の実績				達成状況	新実施計画での対応	備考			
						実績及び事業内容		H17	H18				H19	H20	
3201	図書館整備事業	教育委員会 中央図書館	市民の主体的な学習の場として需要の高い図書館を充実するため、(仮)中央図書館(浦和駅東口市街地再開発ビル内)や地区図書館(片柳図書館、北図書館)を整備します。	事業中	片柳地区図書館開設(18年度)  (仮)中央図書館、北図書館開設(20年度)	平成18年5月1日に片柳図書館、平成19年11月29日に中央図書館、平成20年5月1日に北図書館を開館しました。 中央図書館の整備にあたりましては、パブリック・コメントやさいたま市図書館協議会委員のご意見やご提言をいただき整備基本計画を策定しました。北図書館の運営につきましては、PFI事業者との協働により図書館サービスの提供をしています。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化 ・協働による計画策定、計画の進行管理、事業評価	中央図書館整備基本計画の検討	→	中央図書館開館(11月)	片柳図書館開館(10月)	北図書館開館(5月)	完了	平成19年4月より事業の担当課は、北浦和図書館のみとなりました。  平成19年11月29日に開設された中央図書館に所管が変更されました。		
3202	市民大学の充実	教育委員会 生涯学習振興課	市民の高度で専門的な学習意欲に対応するため、市民大学の講座内容を充実し、魅力的なカリキュラムづくりを進めるとともに、各生涯学習施設と連携し多様な学習機会の場を提供します。  本大学では、大学教授や、各分野の専門家など、それぞれの講座内容に応じた講師が講義にあたり、また、市内大学の関係者や学識経験者から構成される「さいたま市民大学運営委員会」及び「カリキュラム委員会」が効果的な運営、魅力的なカリキュラムづくりを行っています。	受講者 372人/年	500人/年	[取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化 ・協働のノウハウの蓄積と活用 ・協働によるイベントの推進	受講者	368人/年	370人/年	449人/年	471人/年	継続			
3203	(仮)鈴谷地区公民館建設事業	教育委員会 生涯学習総合センター	地域住民の生涯学習とコミュニティの活動拠点となる公民館を鈴谷地区に整備します。	検討	開設(19年度)	平成19年4月に、中央区内公民館を統括する拠点公民館として、また、地域住民の生涯学習、コミュニティ活動の拠点施設として鈴谷公民館を開館しました。 公民館の重点事業としては、コミュニティづくり、少子高齢化対応、子どもの居場所づくり、若者支援・団塊世代支援、時代に即応した公民館職員研修の実施等を行っています。また、市民の自主的学習活動支援、現代的及び地域課題解決型の多様な学級・講座の展開を図っています。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ8 公共施設の適正配置 ・公共施設の新規整備の重点化	用地取得	→	建設工事	→	開館(4月) 供用開始	→	完了		
3204	青少年の健全育成事業(再掲6章2節)	保健福祉局 青少年育成課	青少年の健全育成のため、青少年が主体的に参加できる成人式や青少年の主張大会の開催、青少年育成さいたま市民会議が行う地域巡回活動や非行防止キャンペーンへの支援、青少年健全育成を目的とした市民活動への支援などを行います。	推進	推進	新成人の意見を取り入れ、新成人主体の成人式を、また、青少年が日々の生活の中で感じることを自分の言葉でまとめ、発表する青少年の主張大会を毎年開催しました。 また、青少年育成さいたま市民会議及び青少年の健全育成を目的とした市民活動に対し、補助・支援を行いました。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化 ・協働によるイベントの開催 アプローチ3 市民活動の支援 ・活動の場や機能の充実 ・市民活動の支援	成人式の開催 参加者9,661人  主張大会 応募数小89・中69・高8点  補助、支援を実施	8,629人	10,627人	9,304人	→	→	→	→	平成19年4月の組織改正に伴い、市民局より移管しました。  平成21年度組織改正に伴い、青少年課から青少年育成課に課名を変更しました。



総合振興計画実施計画事業(平成17～20年度)の実績及び達成状況一覧表

第3章 教育・文化・スポーツの分野														
第3節 生涯スポーツの振興														
番号	事業の名称	担当課	事業の概要	現況(H17年度当初)	H20年度未計画目標	4年間の実績				達成状況	新実施計画での対応	備考		
						実績及び事業内容		H17	H18				H19	H20
3301	秋葉の森総合公園整備事業(再掲4章3節)	都市局 都市公園課	緑に囲まれた豊かな自然環境の中で、快適にスポーツを楽しめる多目的スポーツ広場を整備します。	事業中	ピクニック広場整備(17・18年度)散策路整備(19・20年度)事業中	北側ゾーン10haについては、ピクニック広場、自然散策路を整備し、平成20年度までに大部分を開設しました。南側ゾーンについては自然を活かした公園整備が計画されているため、環境に負荷をかけない整備を推進していきます。	(北側)散策路遊具広場0.2ha開設	(北側)散策路ピクニック広場造成	(北側)散策路ピクニック広場	(北側)散策路案内板3.8ha開設	→	継続	平成19年4月の組織改正に伴い、公園みどり課より担当課を変更しました。	
3302	校庭開放夜間照明整備事業	教育委員会 体育課	市民の身近なスポーツ・レクリエーション活動の場として、市内小中学校の夜間開放を行うため、照明設備未設置の学校での整備を計画的に進めます。	設置済 18校	22校	夜間照明設備が未設置であった区の学校に設置を目指し、平成18年度には西区、平成19年度には大宮区、平成20年度には見沼区・北区に、夜間照明設備を整備しました。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ3 市民活動の支援・活動の場や機能の充実		夜間照明設備設置 1校/計19校		1校/計20校	2校/計22校	→	継続	
2408	障害者のスポーツ参加の推進(再掲2章4節)	保健福祉局 障害福祉課	障害者のスポーツ活動の促進のため、全国障害者スポーツ大会等に参加するとともに、障害者スポーツ教室の開催、障害者の交流の場であるふれあいスポーツ大会についても充実を図ります。	初級障害者スポーツ指導員養成0名 推進	120名 推進	障害者スポーツ教室には、4年間を通して、59回開催して949名が参加し、全国障害者スポーツ大会には、4年間で95名が参加しました。障害者スポーツ指導員の養成は、平成18年度の障害者自立支援法の制定に伴い、県事業に移行しました。	初級障害者スポーツ指導員育成24名 障害者スポーツ教室参加者16回226名 全国障害者スポーツ大会参加者岡山大会44名		16回230名	12回207名	15回286名	→	継続	スポーツ指導員の養成は、障害者自立支援法の施行に伴い、平成18年度から、都道府県に移管されましたので、今後は、障害者スポーツ教室などを通して、障害者のスポーツ参加を推進していきます。
3303	国際スポーツイベントの開催支援・招致(再掲7章1節)	政策局 スポーツ企画課	埼玉県を主体として開催される「2006年FIBAバスケットボール世界選手権」の会場市として県と連携し、大会を支援します。また、各種国際スポーツ大会の招致に取り組み、さいたま市を世界に発信します。	バスケットボール世界選手権開催準備	バスケットボール世界選手権開催(18年度) 推進	「2006年FIBAバスケットボール世界選手権」の開催に当たっては、埼玉県と協力し、大会のPRと開催気運の醸成を図りました。大会の総観客動員数は224,050人と大会史上最多であり、ファイナルラウンドを行ったさいたまスーパーアリーナでは、126,150人の観客が世界最高水準のプレーに酔いれました。24の国・地域の人々が参加し、世界130以上の国に映像が配信されたことにより、国内外に本市をPRするとともに、イメージアップが図れました。 国際スポーツ大会の招致については、平成18年から平成19年にかけて開催されたバスケットボール世界選手権、バレーボール世界選手権やワールドカップバレーボールへの支援を通して国際大会の運営及び招致等に関するノウハウの蓄積を図るとともに、市内でサッカー競技が予定されている、2016年開催の「第31回オリンピック競技大会」の東京招致について、八都府市首脳会議での支援決議やJOC主催の「オリンピックデーランさいたま大会」において東京オリンピック招致ブースを設置しPR活動を行う等、東京都と連携し、招致活動を進めました。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化・協働によるイベントの開催	バスケットボール世界選手権開催支援 大会開催(8/26～9/3) →	国際大会等招致調査	バレーボール世界選手権への支援	ワールドカップバレーボールへの支援		→	継続	
							国際大会等招致活動 東京オリンピック招致活動	八都府市首脳会議で東京オリンピック招致の意見表明			東京オリンピック招致活動	→		

総合振興計画実施計画事業(平成17～20年度)の実績及び達成状況一覧表

第3章 教育・文化・スポーツの分野												
第3節 生涯スポーツの振興												
番号	事業の名称	担当課	事業の概要	現況(H17年度当初)	H20年度未計画目標	4年間の実績				達成状況	新実施計画での対応	備考
						実績及び事業内容	H17	H18	H19			
3304	シティマラソンの開催	教育委員会 体育課	市民のスポーツに対する意欲・関心を促すため、全国規模のマラソン大会を開催します。	参加者 3,500人/年	4,000人/年	4年間、毎年11月にさいたまシティマラソンを開催し、合計18,155人の方が参加しました。 平成19年度から市メールマガジンをはじめインターネットによるPRを行いました。 平成20年度は、北海道から沖縄県まで27都道府県からの申し込みがありました。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化 ・協働によるイベントの開催	参加者 3,568人	3,832人	4,670人	6,085人	→	継続
3305	さいたま・たていわ親善ツーマーチの開催(再掲7章1節)	教育委員会 体育課	友好都市の市民がともに村内を歩き、豊かな自然や地域文化への理解、健康・体力づくりをテーマに交流を図るツーマーチを開催します。	参加者 163人/年	200人/年	4年間、毎年10月にさいたま・たていわ親善ツーマーチを開催し、合計807人の方が参加しました。 平成20年は10月11～12日に実施し、会津高原の自然のなかを2日間にわたり、合計約16キロメートルのハイキングを実施しました。	参加者 222人	235人	171人	179人	→	継続
3306	総合型地域スポーツクラブ支援事業	政策局 スポーツ企画課 教育委員会 体育課	「一市民スポーツ」を基本理念に、多様・多世代による地域の自主的な企画・運営を行う総合型地域スポーツクラブづくり支援します。	総合型を目指して活動しているクラブ数 9クラブ(8区)	各区 1クラブ以上	平成17年7月に総合型スポーツクラブ支援要綱を定め、市が求めるクラブ像を具体化しました。 また、平成17年度から、未設置の区に総合型地域クラブの発足を目指し、毎年3回、総合型地域スポーツクラブ推進委員会を開催し、研修会・講座等の情報提供や、クラブの状況についてホームページ掲載などを行いました。 その結果、平成17年度には北区、南区に、平成18年度には岩槻区に、平成20年度には西区、緑区に新たなクラブが設立され、すべての区に設置されました。 さらに、平成20年度からは、中学校サッカー部活動に、総合型地域スポーツクラブからサッカーの指導者を派遣することにより、連携を図りました。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ2 市民との情報共有 ・媒体の多様化(電子媒体等の活用) ・ホームページの充実 アプローチ3 市民活動の支援 ・活動情報の提供(他団体の活動状況、民間を含む各種支援制度の情報提供を含む)	総合型地域スポーツクラブ支援要綱制定 総合型地域スポーツクラブ推進委員会開催 3回開催	3回開催	3回開催	3回開催	→	継続
						活動を支援 北区、南区にクラブ発足 11クラブ/8区	岩槻区にクラブ発足 11クラブ/8区	10クラブ/8区	西区、緑区にクラブ発足 12クラブ/10区	→	部活動にクラブから指導者を派遣	
3307	さいたまシティカップ開催事業(再掲7章1節)	政策局 スポーツ企画課	浦和レッズ・大宮アルディージャと世界の強豪クラブチームとの国際親善試合を定期的に開催し、多くの市民に世界の一流プレーを間近でみる機会を提供し、「サッカーのまちづくり」を国内外に発信します。	累計入場者数 109,910人	360,000人	平成17年から平成20年までの「さいたまシティカップ」には、すべて欧州各国(スペイン、ドイツ、イングランド)トップリーグのチャンピオンチームを招聘しており、世界の強豪チームを本市に招くという目的を達成しました。この4回の平均入場者数は43,000人に上ります。 平成20年度は、7月31日に、「埼玉サッカー100周年記念」を冠した、第6回さいたまシティカップを浦和レッズ対FCバイエルン・ミュンヘン(ドイツ)の対戦で開催し、会場となった埼玉スタジアム2002に27,292人の観客を集めました。 今後も、多くの市民に世界の一流プレーを間近で見る機会を提供していきます。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ7 健全な行財政運営 ・歳入の確保	さいたまシティカップ開催 第3回大会 浦和レッズ対FCバルセロナ(スペイン)	第4回大会 浦和レッズVS FCバイエルン・ミュンヘン(ドイツ)	第5回大会 浦和レッズVS マンチェスター・ユナイテッド(イングランド)	第6回大会 浦和レッズVS FCバイエルン・ミュンヘン(ドイツ)	→	継続
						観客数	57,143人	29,019人	58,716人	27,292人/累計282,080人	→	

総合振興計画実施計画事業(平成17～20年度)の実績及び達成状況一覧表

第3章 教育・文化・スポーツの分野														
第3節 生涯スポーツの振興														
番号	事業の名称	担当課	事業の概要	現況(H17年度当初)	H20年度末計画目標	4年間の実績				達成状況	新実施計画での対応	備考		
						実績及び事業内容	H17	H18	H19				H20	
3308	サッカーのまちづくり推進事業	政策局 スポーツ企画課	サッカーのまちづくり推進協議会による高校サッカー選手団海外派遣や浦和レッズ、大宮アルディージャへの支援などを行い、サッカーを核とした市民スポーツの振興、地域の活性化を推進します。	市内の施設でサッカーに親しんだ(競技、観戦した)人々の数 1,293,000人/年	1,500,000人/年	4年間にわたって、さいたま市サッカーのまちづくり推進協議会による高校サッカー選手団海外派遣や浦和レッズ・大宮アルディージャへの支援などを行い、サッカーを核としたスポーツの振興を行いました。 最終的に、市内の施設でサッカーに親しんだ人数は4年間で6,092,398人にのぼりました。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化・協働によるイベントの開催	市内の施設でサッカーに親しんだ人数	1,394,044人	1,500,512人	1,648,407人	1,549,435人	達成状況	継続	

総合振興計画実施計画事業(平成17～20年度)の実績及び達成状況一覧表

第3章 教育・文化・スポーツの分野													
第4節 さいたま文化の創造													
番号	事業の名称	担当課	事業の概要	現況(H17年度当初)	H20年度末計画目標	4年間の実績				達成状況	新実施計画での対応	備考	
						実績及び事業内容							H17
3401	盆栽文化の振興・活用 (再掲5章2節)	市民局 文化振興課 文化施設建設 準備室 経済局 観光政策課	盆栽文化振興・活用基本構想に基づき、盆栽関連施設を整備し、施設を核とした盆栽文化ネットワークを構築します。また盆栽村の積極的なPRを行い盆栽文化を振興します。	盆栽村来訪者 20万人/年	40万人/年	盆栽関連施設については、盆栽関連施設等基本計画の策定に時間を要したため全体のスケジュールに遅れが生じましたが、平成22年3月の開館を目指し、平成20年度に北区土呂町で建設工事に着手しました。 また、平成19年度には世界に誇る銘品盆栽や貴重な盆器を購入するとともに、平成20年度は展示計画を含む管理運営基本計画を策定し、引き続き、管理運営実施計画の策定、展示造作等を行います。	盆栽関連施設の基本計画策定	観光振興ビジョン基礎調査	盆栽関連施設の基本設計・実施設計	盆栽関連施設建設工事	盆栽関連施設基本計画策定	継続	平成19年度より事業の担当課が、政策局都市経営戦略室(旧総合政策担当)を除き、文化振興課と観光政策室のみとなりました。 平成20年4月の組織改正に伴い、文化振興課より担当課を変更しました。 平成21年度の組織改正に伴い、観光政策室より担当課を変更しました。
3402	氷川参道の整備 (再掲4章1節)	都市局 氷川参道対策室	都心における緑や歩行者のネットワークを形成するため、氷川参道(大宮中央通線以南)をうるおいのある歩行者空間として整備します。また、地元まちづくり組織等とのパートナーシップにより緑の保全を図りつつ沿道等のまちづくりを進めます。	氷川参道(大宮中央通線以南)における歩行者空間の確保率41.6%	100%	大宮中央通線以南の区間(1,080m)において、歩行者空間の確保に必要な歩車分離整備に取り組み、平成19年3月に南区間380mの歩車分離整備が完了し、続いて平成20年3月には北区間250mの歩車分離工事を発注しましたが、計画目標に必要な工事の完了には至りませんでした。 また、緑の保全につきましては、地元まちづくり組織の「氷川の杜うるおいのあるまちづくり協議会」が主体になって活動し、平成21年1月から、協議会において並木敷保護策検討部会を設置し、緑の保全を図る具体的な活動の実施に向けて取り組んでいます。	歩行者空間の確保率	南区間380m (一の鳥居～南大通東線)の整備完了 (3月)		北区間250m (一灯式信号～大宮中央通線)の整備着手 (3月)		継続	平成19年4月の組織改正に伴い、大宮駅周辺計画管理課より担当課を変更しました。 平成21年4月の組織改正に伴い、大宮駅東口まちづくり事務所より担当課を変更しました。
3403	見沼通船堀公園整備事業	都市局 都市公園課	国指定史跡の見沼通船堀と周辺の斜面林を取り込み、見沼田圃の環境に調和した、歴史と自然に触れ合える総合公園を整備します。	事業中	事業中	4年間で事業用地を約1.24ha取得しました。今後も事業用地を継続的に取得し、早期の開業を目指します。	用地取得					継続	平成19年4月の組織改正に伴い、公園みどり課より担当課を変更しました。
3404	鉄道博物館の整備促進 (再掲5章2節)	市民局 文化振興課	東日本鉄道文化財団による鉄道博物館の整備に伴い、本市の地域資源である鉄道文化を生かした魅力あるまちづくりを促進します。	促進	完成 (19年度)	平成19年に、鉄道の日である10月14日、鉄道博物館が開館しました。 日本最大級の模型鉄道ジオラマやD51の運転シミュレーターなどがあり、平成21年3月末までに入場者が240万人を突破するなど、毎日多くの方々が来館しています。 今後も、本市の魅力ある資源の一つである「鉄道文化」の振興及び普及啓発を図るため、鉄道博物館と連携し、事業等を行います。	実施設計 建設工事着手	建設工事		開館(10/14)		完了	

総合振興計画実施計画事業(平成17～20年度)の実績及び達成状況一覧表

第3章 教育・文化・スポーツの分野													
第4節 さいたま文化の創造													
番号	事業の名称	担当課	事業の概要	現況(H17年度当初)	H20年度末計画目標	4年間の実績				達成状況	新実施計画での対応	備考	
						実績及び事業内容		H17	H18				H19
3405	スポーツ文学賞事業	市民局文化振興課	スポーツと芸術文化活動が盛んな本市のアピールのため、全国からスポーツをテーマとした文芸作品を募集し、作品集「SPORTS STORIES」を刊行します。	推進	推進	本事業は、2か年事業として、平成19年度に作品募集を行い、平成20年度に作品の選考及び表彰、作品集の刊行、販売を行っています。(前回は平成17-18年度に実施。) 平成19年度の応募結果は、文学賞162編、エッセイ賞219編で、前回(平成17年度募集)の文学賞135編、エッセイ賞192編を上回る応募数となりました。そして、平成20年度には、全応募作品の中から大賞・優秀賞・佳作などが選ばれ、表彰式を行い、入賞作品集「SPORTS STORIES」を刊行しました。	第3回さいたま市スポーツ文学賞 作品募集・エッセイ賞を新設 応募数327	入賞作品集「SPORTS STORIES」刊行	第4回さいたま市スポーツ文学賞 作品募集 応募数381	入賞作品集「SPORTS STORIES」刊行	→	継続	
3406	漫画・ユーモア文化の振興事業	市民局文化振興課	地域の特色ある文化資源である漫画の重要な要素としてのユーモアをもとに、心の豊かさを実感できる場や機会を提供するため、国際漫画フェスティバルやユーモアフォトコンテストなどの事業を積極的に展開し、新たな都市文化の創造を目指します。また、(仮)ユーモアセンターをプラザノースに整備し、漫画・ユーモア文化の展開・情報発信を行います。	推進	推進	平成17年度から19年度については、漫画・ユーモア事業として「国際漫画フェスティバル」「ユーモアフォトコンテスト」「アジア漫画展(平成18年度まで)」を実施しました。 また、平成20年度には、5月に供用開始した「プラザノース」内に、漫画・ユーモアに関する文化拠点施設として「ユーモアスクエア」を開設し、プラザノースの事業として「国際漫画フェスティバル」「ユーモアフォトコンテスト」「ユーモア音楽祭」を実施しました。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化 ・協働による計画策定、計画の進行管理、事業の評価 アプローチ7 健全な行財政運営 ・指定管理者制度の活用	国際漫画フェスティバル・インさいたま、ユーモアフォトコンテスト実施  アジア漫画展の実施  ユーモアセンター設立準備実行委員会 2回開催	→	→	ユーモア音楽祭の実施  ユーモアスクエアを設置(5月) 指定管理者(PFI事業者)による運営	→	継続	
3407	(仮)岩槻人形会館整備事業(再掲5章2節)	市民局文化振興課文化施設建設準備室	さいたま市の伝統文化のひとつである人形文化を広く内外に発信し、生きた文化として継承するため、地域の魅力とにぎわいを高める拠点ともなる(仮)岩槻人形会館を整備します。	構想・検討	完成	事業用地の選定に時間を要したため、全体のスケジュールに遅れが生じましたが、平成18年度に「(仮称)岩槻人形会館整備基本構想・計画策定懇話会」の設置及び基本構想の策定、平成19年度に基本計画の策定及び建設用地取得、そして平成20年度には、プロポーザル方式による設計者の選定及び基本設計を実施し、事業の着実な進展を図りました。 今後は、実施設計を行うほか、展示計画を含む管理運営基本計画を策定します。  [取り入れた第3編の手法] アプローチ1 協働の仕組みづくり・具体化 ・パブリック・コメント制度の運用 ・協働による計画策定、計画の進行管理、事業の評価	用地選定・先行取得  懇話会設置 基本構想策定  基本計画策定 基本設計	→	→	→	→	継続	平成20年4月の組織改正に伴い、文化振興課より担当課を変更しました。
3408	歴史的資源の保存・整備事業	教育委員会文化財保護課博物館	貴重な文化遺産である文化財を次世代へ継承するとともにその活用を図るため、国指定史跡真福寺貝塚や県指定史跡岩槻瀧邊高館などの文化財の保存整備を進めます。	推進	推進	県指定史跡岩槻瀧邊高館復元工事等として、平成17年度に建物の復元工事を実施し、完了し、平成18年度は隣接地の整備を図るため用地測量等を実施し、平成19・20年度は用地交渉を行いました。 国指定史跡真福寺貝塚整備事業として、史跡指定地内に残る私有地を買い上げるとの史跡の公有地化を図りました。また、将来の史跡公園としての整備に向けて、基本構想を作成しました。	岩槻瀧邊高館復元工事 隣接地の用地測量等 真福寺貝塚史跡の公有地化	→	用地交渉 →	基本構想の策定	→	継続	平成18年度より遺構館整備事業は、博物館が担当課になりました。